

1 主題

H23

「地域や学校の特色を生かした総合的な学習の時間の充実」

- ・ 70(50)時間の質の高い総合的な学習の時間を生み出すカリキュラムの構想と実践の工夫（子どもの姿で検証する営みを大切に）
- ・ 学びの質を高める学校間のさらなる連携（つなぐカリキュラム）

2 活動内容

- (1) 第1回総合学習部会 4月21日（木）
 - ・ 総合学習部会活動計画の提案と説明
- (2) 第1回総合学習部研修会・推進委員会 6月23日（木）
 - ・ 研修会「総合的な学習の時間における妙高市の地域素材の活用について」
 - ・ 妙高っ子米こめサミット実施計画説明：市内小学校5年生担任
 - ・ 市内小・中・特別支援学校カリキュラム集作成配付：総合学習部推進委員
- (3) 第2回総合学習部研修会 11月9日（水）
 - ・ 中間実践レポート持ち寄りによる協議会
- (4) 妙高っ子米こめサミット 11月16日（水）
 - ・ 妙高市内11小学校5年生による発表や討論会
- (5) 総合的な学習の時間授業研修会（予定） 12月14日（水）
 - ・ 授業参観：斐太北小学校4年生「斐太の川の価値（お宝）を問う」
 - ・ 協議会：「総合的な学習の時間の授業づくり、カリキュラムづくり」
- (6) 総合学習部幹事会（予定） 2月17日（金）
 - ・ 実践収録作成、配付

3 成果

- (1) 今年度第1回目の研修会では、市内各校の総合的な学習の時間のカリキュラムや指導計画を集めて「カリキュラム集」を作成した。他校のカリキュラムや総合的な学習の時間の位置づけ等を知り、参考にしたり連携したりする貴重な資料として役立った。
第2回目の研修会では、各校のカリキュラムや指導計画に基づいた実践をレポートにして持ち寄って協議した。昨年度もレポート研修を実施したが、「～をした」という、したこと報告の内容がほとんどで、子どもの思考や追究の様相が見えてこないものであった。そこで今年度は、「子どもの姿で検証する」ことを大切にしたい実践を副題に掲げた。この視点で各学校のレポートを見てみると、学校全体で子どもの様相を見取ろうとする手立てを工夫し、子どもの表出したシートや作文の言葉や活動中の会話、つぶやきなどを意味づけ価値つけて書かれたものが増えてきた。したこと報告から少しずつ脱却してきている。
- (2) 学校間の連携（つなぐカリキュラム）では、年度の始めに「カリキュラム集」を作成したことで、小規模の学校同士で交流活動や学習が展開されるようになった。交流学习で視野が広がったり違う考えに触れたりしながら、子どもたちは自分の考えの練り直し、更新しながらさらに追究を深めていくことが実態として見えてきている。

5 課題

年度当初のカリキュラムや指導計画は、あくまでも構想である。子どもがつくる学びによって、構想から実践になり、カリキュラムや指導計画は柔軟に見直されて生成されていくものである。

子どもの姿で実践を意味づけていく取組は徐々に見えてきている。しかし、それを基にカリキュラムを評価・改善していくことには課題が残る。つまり、カリキュラムは計画や構想ではなく子ども姿で創り続ける子どもの学びの総体であるという理解に立った総合的な学習の時間にしていくことが必要である。